

プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト

Anne M. Gilroy 原著 中野 隆 監訳

解剖学は医学生が医学に接する最初の関門であり、医学に対する期待を実感する場でもあります。しかし、同時に膨大な専門用語に最初に接する場でもあります。暗記に陥りやすい場でもあります。場合によっては無味乾燥に陥ってしまう“難関”でもあります。私自身の経験でも骨の突起の一つひとつをスケッチしてラテン語を付すという延々と続く作業にうんざりしてしまっていることがあります。このたび発刊された『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』は、まさにこの解剖学の難関を突破する書であると思います。

監訳者の中野隆先生は、おそらく解剖学の教育にかけては、わが国の第一人者であると思います。

毎年、解剖実習にきた医学生に、肉眼解剖の重要な発見やポイントを指摘し、それを学生自ら研究して、日本解剖学会などで学生自身が発表し、さらに論文にするという教育を、もう10年以上も続けて来られています。学生参加型の研究を実習に取り入れられてきた、わが国のパイオニアであり、これに参加した学生も大変啓発されていることを感じています。

また中野先生は、解剖学は応用できてこそ価値があるということを常に言われています。臨床の現場に進んで誰もが経験しますが、解剖学が本当の価値を発揮するのは、さまざまな神経症状を示す患者さんを前にして病巣診断を迫られたときであり、腫瘍の切除の範囲やアプローチを考える時であり、機能再建の術式を考える時であり、麻痺のある患者さんのリハビリテーションの方法を考える時です。中野先生は一貫してこのような臨床現場での解剖学の重要性にこだわっておられます。

今回の『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』は、この考え方をまさに具体化している解剖書で

あると思います。さらに、中野先生を中心に、特に解剖学の教育を熱心に進めておられるわが国のエキスパートが結集して、本書の訳出に当たっている点も本書のこの点の価値を高めていると思います。

本書をあらためて見てみますと、この臨床医学の視点と教育への熱意が全体にみなぎっていることがわかります。まずその組み立てが、序論の後、背部、胸部、腹部などそれぞれの部位ごとに血管・神経・筋肉・骨・臓器の記述に始まり、次にそれぞれの相互関係・神経支配・機能的関係、さらにはその関係を示す的確な図が取り入れられており、加えて、放射線画像が挿入されています。また、175項目にも及ぶコラム「臨床医学の視点」が加えられていて、全体を読み進めれば、形態のみならず機能や臨床のヒントを含めた全体像が自然にイメージできるように組み立てられています。また、美しい解剖図がふんだんに使われていて、これらの理解を進める上で素晴らしいものになっています。さらに、各項の末尾に復習問題とその解説が付けられていて、理解度の自己診断ができる形になっています。

まさに解剖学の教育の書であり、われわれが学生時代に使用した解剖学の教科書とは比べものにならないもので、まったく革命的に進化したものになっていると感じます。

私は、この『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』を医学生だけでなく、医学・医療にかかわる全ての人にぜひ活用していただきたいと思い推薦します。

学校法人愛知医科大学理事長
祖父江元

A4変型・頁608 2019年4月
定価：本体8,500円＋税
[ISBN978-4-260-03687-0] 医学書院刊